生命（いのち）のにぎわい調査団

生命（いのち）のにぎわい通信

第 44 号：発行　平成 29 年（2017 年）9 月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
千葉県生物多様性センター

〒260-8682　千葉市中央区青葉町 955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601　FAX 043-265-3615
URL http://www.bdcchiba.jp/monitor/
E-mail monitor@bdcchiba.jp

野外で注意してほしい危険な生きもの

今年の夏は、日本各地でヒアリやヤマカガシが話題となり、テレビや新聞をにぎわせました。県内ではヒアリは発見されていませんが、物資の輸送とともにヒアリが持ち込まれる可能性はあり、今後もモニタリングが必要です。危険な生きものはほかにも様々いますが、相手を良く知り、注意して接するように心がければ、危険は回避できます。正しい知識を持って、おつきあいしていきましょう。

ヒアリ（特定外来生物）**中央博物館標本**
南米原産の外来種で、攻撃性の高いアリです。見慣れないアリがいても、素手では触らないように気をつけてください。**（県内未発見）**

チャドクガ　a0512
庭木等の剪定のときは、葉に食痕がないか確認して、触らないように注意してください。卵から成虫まで毒毛を持っています。

オオスズメバチ　a0512
ハチが近づいてきたらとにかく動かないでください。複数のハチが見えたら近づかず、ゆっくり遠ざかるようにしてください。

トビズムカデ　a0034
壁や木の幹等、高いところにも登ります。夜行性なので夜は特に注意。靴などを野外に放置した場合には、履くときに注意してください。

タカサゴキララマダニ　a0389
野外活動のときは肌を露出させず、白っぽい服装にしてマダニを見つけやすいようにしてください。ペットの散歩後はしっかりブラッシング。

ヤマカガシ　a0512
奥歯だけでなく後頭部にも毒があるので、むやみに捕まえないでください。こちらから危害を加えなければ、咬まれることはありません。

セアカゴケグモ（特定外来生物）**a1116**
オーストラリア原産で、分布が拡大しつつある外来種です。側溝の掃除等、見えない場所に手を入れる場合は必ず手袋をしてください。

カツオノエボシ　a0912
内房、外房のどちらでも発見されているクラゲです。海岸に流れ着いていたら、どんなにきれいでも拾わないでください。長い触手に注意を。

もし咬まれたら、すぐ病院へ

刺されたり、咬まれたりした場合には、
1．1 人にならない
（体調が急変する場合を想定）
2．頭痛、吐き気、発疹が少しでもあれば速やかに 119 番通報
3．症状が出なくても、できるだけ早く病院へ

被害に遭わないためには、正しい知識を身につけておくことが大切です。

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください
「生物多様性センター」http://www.bdcchiba.jp/　「調査団」http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html

中込 哲さんが生物多様性センターを卒業します！

生命のにぎわい調査団事務局の中込 哲です。2010 年の 4 月から調査団関連業務に携わってきましたが、2017 年 9 月 30 日をもって退職することとなりました。10 月からは、三宅村役場（東京都三宅島）の職員として働くことになります。生き物報告等を通じてまた現地研修会やフォーラム等の機会に団員の皆様とたくさんの情報を交換させていただいたことは、とてもためになるものでした。この場を借りて御礼申し上げます。

三宅村での業務内容は、まだ決まっていませんが、「バードアイランド三宅島」としての観光企画に携われたらと思っています。よろしければ島を訪れて、三宅島自慢の「日本一のさえずりの小径」を肌で感じてみてください。きっともう一度訪れたくなるはずです。

それでは皆様、決して無理をせず、これからも楽しく生きものたちと付き合っていっていただければと思います。

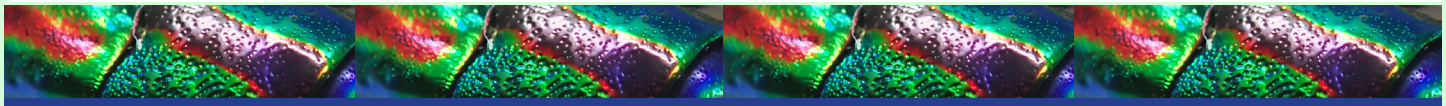
7 年半という長い間、本当にありがとうございました。

千葉県生物多様性センター　嘱託　中込　哲

サラサヤンマ撮影中！

おいしいトビウオ

三宅村の鳥 アカコッコ

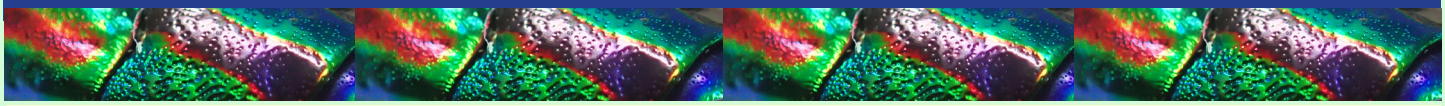


ご案内：平成 29 年度 千葉県と連携大学との研究成果発表会

「生物学への工学的アプローチの多様性」

平成 29 年 10 月 7 日（土）　13:00 ～ 16:40 千葉工業大学津田沼キャンパス 7 号館

詳しくは生物多様性センターウェブサイトをご覧ください。



平成 29 年度 第 2 回現地研修会は

上総自然学校（袖ケ浦市 川原井 真光寺）にて

平成 29 年 10 月 14 日（土）　と 10 月 17 日（火）

の 2 日間、**同じプログラムで**開催します。

どちらか一方を選んでお申込みください。詳しくは同封の案内をご覧ください。

＜これからの季節に観察できる生きもの＞

○調査対象種：ミヤコドリ、オオバン、モズ、リンドウ、イチョウ（黄葉）、イロハモミジ（紅葉）、ヒガンバナ（開花）

○調査対象種以外（種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします）

＊渡りのシギ・チドリ類、　＊各種昆虫（とくにバッタ、コオロギ、カマキリ）、　＊両生類、爬虫類など

＊希少生物（生息・生育数が減少している生物）や、外来生物の報告も受け付けています。

メールアドレスなど、団員登録情報に変更がありましたら、事務局までお知らせください